

---

# 過去の決別

サトシ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

過去の決別

### 【Nコード】

N5041B

### 【作者名】

サトシ

### 【あらすじ】

この話は主人公が引きずっている過去と決別する話です。

## （前書き）

この小説はフィクションです。

何かの気まぐれで夜、散歩をしていた。  
明日は土曜日だし時間はあるから、  
夜の公園でゆっくりとしていた。

「こんばんわ」

驚いた。

こんな時間に女性がいるとは。

「こんばんわ。」

こんな時間に

一人なんて危ないぜ。」

普段はあまり喋らないのに

この時は口数が多かった。

「一人じゃないわ。」

此処には貴方がいるし、

それとも危ない事するつもりだったの？」

「俺にそのつもりはないが

初対面の人間を信用しすぎだろ？」

彼女は見覚えのある顔で笑った。

「そこまでバカじゃないわ。」

でも貴方にとっては初対面なのね。」

俺を知っているのか？

目の前の女性は・・・

「君とどこかで逢ったか？」

「逢っているでも

逢っていない。」

何だその答えは・・・

「『今』の私とは初対面よ」

「まあいい。」

でも俺に話しかけたのはなぜだ？」

彼女は初対面といったはずだ。

「お話がしたかったから。」

「それだけか？」

「それだよ。」

それから色んなことを話した。  
時間を感じないくらい話した。

「もう時間ね。」

「そうか。」

楽しかったぜ、久しぶりに笑えた。

今日のことは忘れないから。」

「私も楽しかった。」

貴方に逢えたこと忘れないわ。

だから・・・

もう過去に囚われないでね

これからは笑顔で負けないでがんばってね。」

そう言っただけは今まで見た

どれよりも優しく微笑んで去っていった。

あれから3日過ぎた。

今俺は昔亡くなった初恋の少女の写真を見ている。

俺はあの時から人を好きになっ  
ていない。

失ってしまったから。

失う悲しみを知ってしまったから。

あの少女の眠ってしまった顔が忘れられなかった。

公園で逢った彼女はあの少女だったのか？

あるいはまったく別の誰かだったのか。

真実の行方はわからない。

ああそうだ。

彼女の墓参りに行こう。

そして伝えよう。

「ありがとう

愛していた」と

乗り越えよう。

悲しみを、

彼女と過ごした尊くも儚い想い出を。

君は微笑んでいてくれるだろうか？

（後書き）

初めて書いたので  
読みにくかったりするかもしれませんが、  
これからもよろしく願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5041b/>

---

過去の決別

2011年1月12日22時03分発行